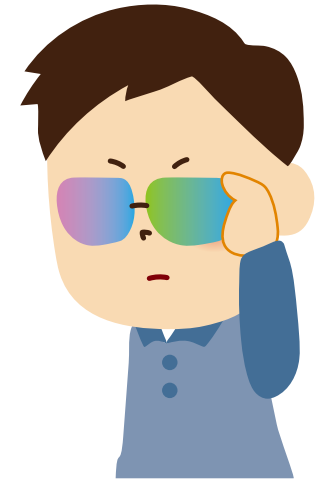


性暴力被害に関する 偏見・誤解

性暴力にまつわる話として、その真偽に関わりなく、広く一般に信じられていること(いわゆる「レイプ神話」)があります。

こうしたことは、知らず知らずのうちに意識の中に刷り込まれ、その結果、被害者が自分自身を責めてしまうこともあります。被害者には何の落ち度もありません。被害の責任は加害者にあります。



Q 性暴力はめったに起こらない?

A 無理やり性交等をされた経験がある女性は6.9%で、約14人に1人となっています。

Q 若い女性だけが被害にあう?

A 実際には、乳幼児から高齢者まで、すべての年代の女性が被害にあっています。

Q 被害はほとんど見知らぬ人から受けている?

A 被害者の約9割が面識のある人から被害を受けています。うち女性では、「交際相手・元交際相手」が31.2%、「配偶者(事実婚や別居中を含む)」が17.6%などとなっており、「全く知らない人」は11.2%となっています。

Q 被害者側の挑発的な服装や行動が被害を招いている?

A 挑発的な服装や行動などの特定性はありません。むしろ加害者は、後で訴えないであろうと、地味な服装の人を狙うことがあります。

Q 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている?

A 性暴力は、支配、征服、所有の欲望が性的行為というかたちとなったもので、多くは計画的な犯行です。

Q 襲われるのは、たいてい暗い夜道やひと気のない場所?

A 被害にあった場所は、屋内が多いです。

Q 被害者が本気で抵抗すれば、逃げることはできる?

A 被害者は「抵抗しない」のではなく、抵抗できない場合がほとんどです。

Q 子どもへの性虐待はめったに起こっていない?

A 起こっています。被害にあった時期は、「小学校入学前」が8.5%、「小学生のとき」が11.3%となっています。